

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第27週[7月4日～7月10日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>
 E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

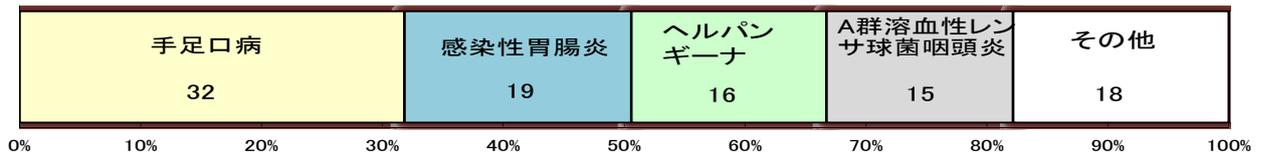
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：手足口病，ヘルパンギーナ，A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 8日に四国地方は梅雨明けとなり，これから夏本番を迎える．体調管理や熱中症に気をつけたい．
- 手足口病**（高幡：警報→警報，幡多：警報→警報，高知市：注意報→注意報，中央東：警報→注意報，安芸：注意報→注意報）は高知市と高幡を除く地域で減少し，総数はやや減少した．
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（中央東：警報→警報，高知市：注意報）は中央東と幡多でそれぞれ1/2以下に減少し，総数は前週の約6割に減少した．
- ヘルパンギーナ**（中央西：警報→警報，安芸：警報→注意報，高幡：注意報→注意報）は高知市，中央西，幡多で増加し，総数は引き続き増加した．

上位疾患構成図



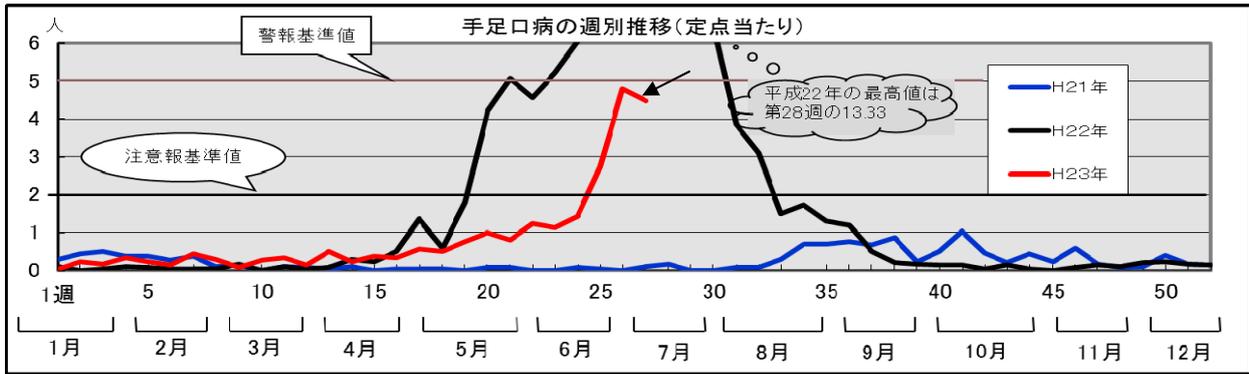
地域別感染症注意報・警報発生状況

第27報（2011年7月4日～2011年7月10日）



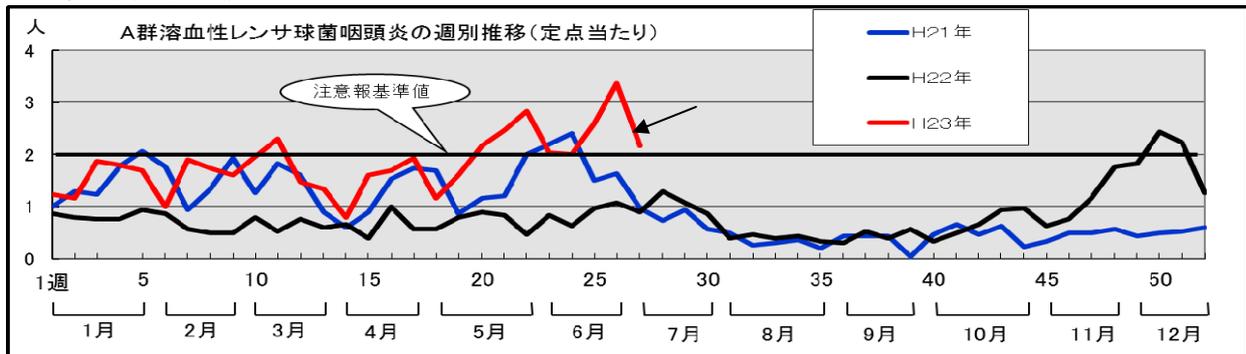
手足口病：今週 4.47 （注意報値：2.00 警報値：5.00）

第24週以降，急増が続き前週は警報値に迫る報告数となり，注目されたが今週は減少に転じた．しかし，高幡と幡多では引き続き警報値を超している．年齢別にみると4歳以下で7割強を占め，特に1，3歳からの報告が多い．今週は減少したが，流行シーズン中であり今後も推移に注意が必要である．



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：今週 2.17 （注意報値：2.00 警報値：4.00）

例年であれば減少傾向となる時期に、報告数の急増がみられ注目されていたが、今週は大幅に減少した。しかし、中央東では依然警報値を上回っており、総数も例年と比較して高いレベルであり、今後も推移が注目される。



検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
22	アデノウイルス感染症	1歳 女	高幡	Adenovirus 1
22	アデノウイルス感染症	1歳 女	高幡	Adenovirus 3
27	突発性発疹	1歳 男	中央東	Human herpes virus 6
26	咽頭結膜炎	5歳 女	高知市	Human metapneumovirus
26	下気道炎	2歳 女	高知市	Human metapneumovirus
26	下気道炎	2歳 女	高知市	Parainfluenza virus 3
26	肺炎	2歳 女	中央東	Parainfluenza virus 3
25	感染性胃腸炎	1ヵ月 女	幡多	Parechovirus NT

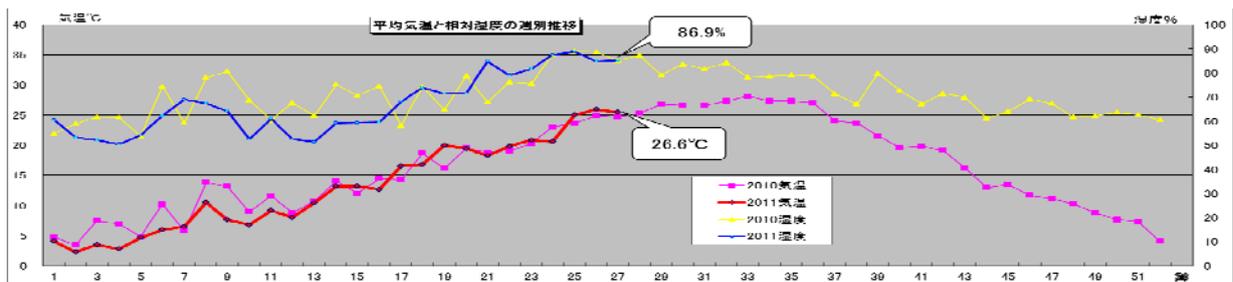
○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 3例（90代女）《幡多》（70代女）《安芸》（80代女）《高知市》（今年83例）

5類感染症：梅毒 1例（70代男）《高知市》（今年4例）

後天性免疫不全症候群 1例（60代男）《中央東》（今年3例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

高幡：

《もりはた小児科》：手足口病の流行が続く

滲出性扁桃炎（アデノウイルス） 1例（1歳女）

中央西：

《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（7歳女）

《くぼたこどもクリニック》：ヘルパンギーナの1例（4歳男）は高知市 水痘の1例（1歳男）は高知市

《日高クリニック》：マイコプラズマ感染症 2例（2, 14歳女）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の1例は梶原町

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：病原性大腸菌 3例（0-153:2歳男, 0-1:8, 10歳男）ベロ毒素陰性

アデノウイルス扁桃炎 2例（1歳男, 7歳女）

カンピロバクター腸炎 3例（8歳男, 10歳男:2例）

中央東：

《吉本小児科皮膚科》：病原性大腸菌 1例（0-114:1歳男）ベロ毒素陰性

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（12歳女）

全国情報第25週（6/20～6/26）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核345例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症83例（有症者54例、うちHUS なし）

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎1例、エキノコックス症1例、つつが虫病8例、デング熱1例、レジオネラ症12例

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎2例（B型1例、C型1例）、急性脳炎4例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群20例（AIDS 6例、無症候13例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒10例、破傷風1例、風しん11例、麻しん12例

報告遅れ：E型肝炎2例、マラリア1例、レジオネラ症2例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆伝染性紅斑

伝染性紅斑(erythema infectiosum)は、ヒトパルボウイルスB19 (Human parvovirus B19)を病原体とし、4～5歳の幼児を中心に幼児、学童に好発する流行性の発疹性疾患である。典型例では両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれることもあるが、本症の周辺には多くの非定型例や不顕性感染があること、また多彩な臨床像があることなども明らかになってきている。

感染後約1週間で軽い感冒様症状を示す例がみられることがあるが、この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの体外への排泄量は最も多くなる。本疾患の特徴的な症状は感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑であり、続いて腕、脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられる。体幹部（胸腹背部）にまでこの発疹が出現する例もある。発熱はあっても軽度である。本疾患の大きな特徴として、発疹出現時期を迎えて伝染性紅斑と臨床的に診断された時点は抗体産生後であり、ウイルス血症はほぼ終息し、既に周囲への感染性は殆どないといわれている。

成人では両頬の蝶形紅斑は少ない。一方、合併症である関節痛・関節炎の頻度は小児では約10%以下といわれているが、成人男性では約30%、成人女性では約60%と高率である。また、妊婦が感染すると、胎児水腫や流産の可能性がある。妊娠前半期の方がより危険性が高いが、後半期にも胎児感染は生じるとの報告もある。なお、先天性風しん症候群のように、妊婦が伝染性紅斑の原因ウイルスであるヒトパルボウイルスB19に感染したことにより、先天奇形をもった児が出生されたとの報告はこれまでにない。その他、溶血性貧血患者が感染した場合の貧血発作(aplastic crisis)を引き起こすことがあり、他にも血小板減少症、顆粒球減少症、血球貪食症候群等の稀ではあるが重篤な合併症が知られている。

感染経路は通常は飛沫感染もしくは接触感染であるが、まれにウイルス血症の時期に採取された血液製剤からの感染の報告がある。本症は紅斑出現の時期には殆ど感染力がないが、反対にウイルス排泄時期には特徴的な症状を呈さないために診断に至らず、実際的な二次感染予防策は存在しない。

伝染性紅斑の報告数は例年夏季に増加し、第26週または第27週前後がピークとなることが多い。1982年よりその発生動向の調査が開始されているが、これまで流行のピークが高く、比較的大きな流行となったのは、1987年、1992年、1997年、そして2000年以降では2001年、2007年であり、ほぼ4～6年ごとの周期で大きな流行時期を迎えている。2008～2009年の報告数は減少し、夏季の流行のピークも定かではない状態が続いていたが、その後2010年の報告数は前年よりも増加し、特に秋季以降は例年よりも高い水準となり、2011年に入ってその高い水準を保ったまま現在まで継続している。2011年第25週の伝染性紅斑の定点当たり報告数は1.47（報告数4,618）となり、前週の報告数（定点当たり報告数0.96）よりも大きく増加した。伝染性紅斑の定点当たり報告数が1.4を上回ったのは1992年以来である。都道府県別では宮崎県(3.92)、群馬県(3.16)、栃木県(3.13)、埼玉県(3.03)、福島県(2.71)、静岡県(2.63)、愛知県(2.40)の順となっている。43都道府県で前週よりも増加がみられており、特に宮崎県、埼玉県、群馬県の増加が目立っている。

2011年第1～25週までの定点当たり累積報告数は17.84（累積報告数55,901）であり、2000年以降の同期間では最も多い報告数となっている。年齢群別割合をみると、4～5歳が31.6%と最多であり、次いで6～7歳(25.0%)、2～3歳(17.1%)、8～9歳(13.3%)の順となっており、7歳までで全報告数の75%以上を、9歳以下で90%以上を占めているのは例年と同様である。

2011年の伝染性紅斑の流行は、例年よりも大きな流行となり、現在そのピークを迎えつつあるものと推測される。しかし、伝染性紅斑は多彩な臨床像を呈する疾患であり、診断されているのは感染者の中の一部に過ぎず、実際にはより多くの者が本疾患の病原体であるヒトパルボウイルスB19に感染している可能性がある。今しばらくは伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(26週)	高知県(27週末累計) H23/1/3~H23/7/10
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ							8 (0.17)	491 (0.10)	12,332 (256.92)	
小児科	咽頭結膜熱		1	2	1	3	4	11 (0.37)	1 (0.03)	2,447 (0.78)	171 (5.70)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29	23	5	3	5	65 (2.17)	101 (3.37)	5,448 (1.74)	1,485 (49.50)
	感染性胃腸炎	5	14	49	6	1	4	79 (2.63)	48 (1.60)	11,863 (3.79)	6,013 (200.43)
	水痘	1	4	10	4		7	26 (0.87)	21 (0.70)	5,789 (1.85)	1,243 (41.43)
	手足口病	5	20	44	5	23	37	134 (4.47)	144 (4.80)	22,506 (7.19)	706 (23.53)
	伝染性紅斑		2	2			3	7 (0.23)	8 (0.27)	3,261 (1.04)	222 (7.40)
	突発性発疹			6	2	1	3	12 (0.40)	18 (0.60)	2,191 (0.70)	388 (12.93)
	百日咳								1 (0.03)	95 (0.03)	11 (0.37)
	ヘルパンギーナ	7	7	20	23	4	7	68 (2.27)	61 (2.03)	6,973 (2.23)	360 (12.00)
	流行性耳下腺炎			4	1	1	7	13 (0.43)	10 (0.33)	2,937 (0.94)	210 (7.00)
	RSウイルス感染症									328 (0.10)	557 (18.57)
眼科	急性出血性結膜炎									245 (0.36)	(0.00)
	流行性角結膜炎			3				3 (1.00)	1 (0.33)	562 (0.83)	28 (9.33)
基幹	細菌性髄膜炎									16 (0.03)	2 (0.29)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	13 (0.03)	11 (1.57)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.29)	1 (0.14)	282 (0.61)	55 (7.86)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)	2 (0.29)	10 (0.02)	6 (0.86)
計 (小児科定点当たり人数)	18 (9.00)	77 (11.00)	166 (14.55)	47 (15.67)	36 (18.00)	77 (15.40)	421 (13.83)				
前週 (小児科定点当たり人数)	23 (11.50)	130 (18.57)	132 (11.64)	36 (11.73)	36 (16.75)	69 (13.53)		426 (13.93)	65,457	23,800 (635.78)	

定点当たり

第27週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(26週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ							0.17	0.10	
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.18	0.33	1.50	0.80	0.37	0.03	0.78
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4.14	2.09	1.67	1.50	1.00	2.17	3.37	1.74
	感染性胃腸炎	2.50	2.00	4.45	2.00	0.50	0.80	2.63	1.60	3.79
	水痘	0.50	0.57	0.91	1.33		1.40	0.87	0.70	1.85
	手足口病	2.50	2.86	4.00	1.67	11.50	7.40	4.47	4.80	7.19
	伝染性紅斑		0.29	0.18			0.60	0.23	0.27	1.04
	突発性発疹			0.55	0.67	0.50	0.60	0.40	0.60	0.70
	百日咳								0.03	0.03
	ヘルパンギーナ	3.50	1.00	1.82	7.67	2.00	1.40	2.27	2.03	2.23
	流行性耳下腺炎			0.36	0.33	0.50	1.40	0.43	0.33	0.94
	RSウイルス感染症									0.10
眼科	急性出血性結膜炎									0.36
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	0.33	0.83
基幹	細菌性髄膜炎									0.03
	無菌性髄膜炎								0.14	0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.14	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14	0.29	0.02
計 (小児科定点当たり人数)	9.00	11.00	14.55	15.67	18.00	15.40	13.83			
前週 (小児科定点当たり人数)	11.50	18.57	11.64	11.73	16.75	13.53		13.93		

2011年週報推移(定点当たり)

